

四半期報告書

(第37期第1四半期)

自 平成20年5月1日
至 平成20年7月31日

株式会社ロック・フィールド

神戸市東灘区魚崎浜町15番地2

(E00482)

表 紙

第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2
第2 事業の状況	
1 生産、受注及び販売の状況	3
2 経営上の重要な契約等	5
3 財政状態及び経営成績の分析	5
第3 設備の状況	6
第4 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) ライツプランの内容	7
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(5) 大株主の状況	7
(6) 議決権の状況	8
2 株価の推移	8
3 役員の状況	8
第5 経理の状況	9
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
2 その他	18
第二部 提出会社の保証会社等の情報	19

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成20年9月12日
【四半期会計期間】	第37期第1四半期（自平成20年5月1日至平成20年7月31日）
【会社名】	株式会社ロック・フィールド
【英訳名】	ROCK FIELD CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩田 弘三
【本店の所在の場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	（代表）（078）435-2800
【事務連絡者氏名】	経理グループマネージャー 伊澤 修
【最寄りの連絡場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	（代表）（078）435-2800
【事務連絡者氏名】	経理グループマネージャー 伊澤 修
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第36期
会計期間	自平成20年5月1日 至平成20年7月31日	自平成19年5月1日 至平成20年4月30日
売上高(百万円)	11,773	47,171
経常利益(百万円)	377	2,543
四半期(当期)純利益(百万円)	184	1,322
純資産額(百万円)	19,956	20,077
総資産額(百万円)	24,880	25,838
1株当たり純資産額(円)	1,502.59	1,511.65
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	13.92	99.59
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	—	—
自己資本比率(%)	80.2	77.7
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△19	3,156
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△252	△987
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△459	△1,264
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(百万円)	5,328	6,058
従業員数(人)	1,314	1,351

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等を含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社2社）が営んでいる事業内容に重要な変更はありません。

なお、平成20年5月に、連結子会社である株式会社コウベデリカテッセンは製造部門を当社へ移管したことにより、そうざいの販売専業の会社となりました。

3【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状態】

(1) 連結会社の状況

平成20年7月31日現在

従業員数（人）	1,314（2,847）
---------	--------------

(注) 従業員数は就業人数であり、臨時雇用者数（パートタイマー、アルバイト）は当第1四半期連結会計期間の平均雇用人員（8時間換算）を（ ）内に外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成20年7月31日現在

従業員数（人）	1,309（2,824）
---------	--------------

(注) 従業員数は就業人数であり、臨時雇用者数（パートタイマー、アルバイト）は当第1四半期会計期間の平均雇用人員（8時間換算）を（ ）内に外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間の生産実績を製品別に示すと、次のとおりであります。

なお、同一製品が複数業態で販売されるため、業態別の生産実績は記載しておりません。

製品別	生産高（百万円）
サラダ	5,371
神戸コロッケ	1,066
フライ	2,286
デイリーそうざい	2,011
路面店そうざい	562
ベジテリア	687
その他	51
合計	12,037

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当社グループでは見込み生産を行っておりますので該当事項はありません。

(3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間の販売実績を事業の業態別に示すと、次のとおりであります。

業態別		販売高 (百万円)
RF1	サラダ	4,877
	フライ	2,090
	その他そうざい	1,694
	小計	8,662
神戸コロッケ		1,037
いとはん・三日坊主		450
RF1 Asia・融合		279
そうざいや 地球健康家族	そうざい	465
	弁当・米飯	212
	小計	678
ベジテリア		525
DELICA rf-1		51
その他		88
合計		11,773

(注) 1. 当第1四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	当第1四半期連結会計期間 (自 平成20年5月1日 至 平成20年7月31日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)
㈱高島屋	1,380	11.72

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、原油価格の高騰による物価の上昇や個人消費の低迷、さらに企業収益の伸び悩みによる設備投資の減少が見られました。さらに米国経済の減速などの影響もあり、総じて景気は後退局面に入り、先行きの不透明感は依然強いものであります。

そうざい業界におきましても、石油製品価格や原材料価格の高騰などの影響が継続しており、当業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

このような環境の中におきまして、当社グループは「たゆまぬ全員参加の“K A I Z E N”と大胆な“イノベーション”の風を起こそう！」のスローガンの下、付加価値・収益性の高いSOZAIオンリーワン企業を目指して、5月に第6次中期経営計画をスタートさせました。「健康」「安心・安全」「美味しさ」「鮮度」「サービス」「環境」の価値観の下、顧客ニーズに対応するため、高品質で付加価値の高い商品開発を行い、お客様に喜んで頂ける商品展開に取り組んでまいりました。

その結果、売上高は11,773百万円となりましたが、原油価格や原材料価格の高騰、さらに人材確保難による人件費の増加などの影響により、営業利益は366百万円、第1四半期純利益は184百万円となりました。

(2)財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間の資産合計は、前期末と比べて957百万円減少し、24,880百万円となりました。この主な要因は、法人税の支払等により現金及び預金が709百万円減少したこと、有形固定資産が73百万円減少したことなどによるものであります。

負債合計は、前期末と比べて836百万円減少し、4,923百万円となりました。この主な要因は、未払法人税等の減少634百万円、賞与引当金の減少289百万円等によるものであります。

純資産合計は、前期末と比べて120百万円減少し、19,956百万円となりました。この主な要因は、剰余金の配当292百万円、第1四半期純利益184百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は80.2%、1株当たり純資産は1,502円59銭となりました。

(3)キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べて729百万円減少し、当第1四半期末には5,328百万円となりました。

当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は19百万円となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益359百万円、賞与引当金の減少289百万円、法人税等の支払額621百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は252百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出166百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は459百万円となりました。これは、主に長期借入金の約定弁済165百万円、配当金の支払額292百万円等によるものであります。

(4)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5)研究開発活動

当第1四半期連結会計期間における当社グループの研究開発活動の金額は48百万円であります。なお、当第1四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

①重要な設備の完了

前連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設、拡充のうち、当第1四半期連結会計期間に完了したものは次のとおりであります。

会社名	事業所名	設備の内容	投資金額（百万円）	完了年月
提出会社	営業店舗	新規出店	35	平成20年7月
	神戸ファクトリー	生産設備	40	平成20年7月
	静岡ファクトリー	生産設備	35	平成20年7月

(注) 金額には消費税等は含まれておりません。

②重要な設備の除却

当第1四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の除却計画はありません。

③重要な設備の改修

当第1四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の改修計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数 (株) (平成20年7月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成20年9月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,394,374	13,394,374	東京証券取引所 大阪証券取引所 各市場第一部	—
計	13,394,374	13,394,374	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万 円)	資本準備金残 高 (百万円)
平成20年5月1日～ 平成20年7月31日	—	13,394,374	—	5,544	—	5,861

(5)【大株主の状況】

当第1四半期会計期間において、明治安田生命保険相互会社及びその共同保有者である明治ドレスナー・アセットマネジメント株式会社から、平成20年7月3日付で提出された大量保有変更報告書により平成20年6月30日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容が確認できないため、当社として実質所有株式数の確認ができません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券保有割合 (%)
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	株式 727,200	5.43
明治ドレスナー・アセット マネジメント株式会社	東京都港区北青山3丁目6番7号	株式 64,000	0.48

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成20年4月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成20年7月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 112,700	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 13,270,700	132,707	—
単元未満株式	普通株式 10,974	—	1単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	13,394,374	—	—
総株主の議決権	—	132,707	—

（注）「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が、5,000株（議決権50個）含まれております。

②【自己株式等】

平成20年7月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社 ロック・フィールド	神戸市東灘区魚崎浜 町15番地2	112,700	—	112,700	0.84
計	—	112,700	—	112,700	0.84

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 5月	6月	7月
最高（円）	1,600	1,515	1,459
最低（円）	1,460	1,355	1,324

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日内閣府令第50号）附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結累計期間（平成20年5月1日から平成20年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年7月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,448	6,158
売掛金	3,433	3,331
製品	58	54
仕掛品	56	53
原材料及び貯蔵品	144	177
その他	364	544
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	9,506	10,319
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,229	8,352
機械装置及び運搬具（純額）	455	477
土地	3,003	3,003
建設仮勘定	11	16
その他（純額）	783	707
有形固定資産合計	※ 12,483	※ 12,557
無形固定資産		
無形固定資産	279	304
投資その他の資産		
投資有価証券	386	403
差入保証金	584	581
長期預金	1,000	1,000
繰延税金資産	87	98
その他	561	581
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	2,611	2,657
固定資産合計	15,374	15,518
資産合計	24,880	25,838

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年7月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,297	1,224
1年内返済予定の長期借入金	725	750
未払法人税等	48	682
賞与引当金	231	520
その他	1,976	1,890
流動負債合計	4,279	5,068
固定負債		
長期借入金	552	692
その他	92	—
固定負債合計	644	692
負債合計	4,923	5,760
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861
利益剰余金	8,705	8,813
自己株式	△208	△208
株主資本合計	19,902	20,010
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	66	82
為替換算調整勘定	△12	△15
評価・換算差額等合計	53	66
純資産合計	19,956	20,077
負債純資産合計	24,880	25,838

(2) 【四半期連結損益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年5月1日 至 平成20年7月31日)
売上高	11,773
売上原価	5,203
売上総利益	6,569
販売費及び一般管理費	※1 6,202
営業利益	366
営業外収益	
受取配当金	2
保険配当金	7
その他	5
営業外収益合計	16
営業外費用	
支払利息	4
その他	0
営業外費用合計	5
経常利益	377
特別損失	
固定資産除却損	17
特別損失合計	17
税金等調整前四半期純利益	359
法人税等	※2 174
四半期純利益	184

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第1四半期連結累計期間
 (自 平成20年5月1日
 至 平成20年7月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	359
減価償却費	343
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△289
受取利息及び受取配当金	△3
支払利息	4
固定資産除却損	17
売上債権の増減額 (△は増加)	△101
たな卸資産の増減額 (△は増加)	25
仕入債務の増減額 (△は減少)	72
その他	173
小計	602
利息及び配当金の受取額	3
利息の支払額	△4
法人税等の支払額	△621
営業活動によるキャッシュ・フロー	△19
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△20
有形固定資産の取得による支出	△166
有形固定資産の売却による収入	20
無形固定資産の取得による支出	△9
長期前払費用の取得による支出	△61
投資有価証券の取得による支出	△14
差入保証金の回収による収入	4
差入保証金の差入による支出	△7
その他	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△252
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△165
リース債務の返済による支出	△2
自己株式の取得による支出	△0
配当金の支払額	△292
財務活動によるキャッシュ・フロー	△459
現金及び現金同等物に係る換算差額	2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△729
現金及び現金同等物の期首残高	6,058
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 5,328

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成20年5月1日 至 平成20年7月31日)
会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更</p> <p>たな卸資産</p> <p>通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。</p> <p>(2) リース取引に関する会計基準の適用</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、当第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。これによる損益に与える影響はありません。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。</p>

【簡便な会計処理】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期連結会計期間
(自 平成20年5月1日
至 平成20年7月31日)

(有形固定資産の耐用年数の変更)

平成20年度の法人税法の改正を契機として固定資産の使用状況等を見直した結果、当第1四半期連結会計期間より機械装置の耐用年数を9年から10年に変更しております。

この変更により、従来の方法によった場合と比べ、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成20年7月31日)	前連結会計年度末 (平成20年4月30日)
※ 有形固定資産の減価償却累計額は、10,707百万円であります。	※ 有形固定資産の減価償却累計額は、10,572百万円であります。

(四半期連結損益計算書関係)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年5月1日 至 平成20年7月31日)
※ 1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
支払手数料 1,505百万円
給料及び賞与 2,116百万円
賞与引当金繰入 159百万円
※ 2. 「法人税、住民税及び事業税」と「法人税等調整額」は「法人税等」として一括して記載しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年5月1日 至 平成20年7月31日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年7月31日現在)
現金及び預金勘定 5,448百万円
預入期間が3か月を超える定期預金 △120百万円
現金及び現金同等物 <u>5,328百万円</u>

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成20年7月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自 平成20年5月1日 至 平成20年7月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数
普通株式 13,394,374株
2. 自己株式の種類及び株式数
普通株式 112,801株
3. 配当に関する事項
配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年7月29日 定時株主総会	普通株式	292	22	平成20年4月30日	平成20年7月30日	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間（自平成20年5月1日 至平成20年7月31日）

当社グループは、同一セグメントに属する各種そうざいの製造・販売事業を行っており、当該セグメント以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

【所在地別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間（自平成20年5月1日 至平成20年7月31日）

全セグメントの売上高の合計額に占める「本邦」の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

当第1四半期連結累計期間（自平成20年5月1日 至平成20年7月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(有価証券関係)

有価証券の当四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を行っておりませんので該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成20年7月31日)	前連結会計年度末 (平成20年4月30日)
1株当たり純資産額 1,502.59円	1株当たり純資産額 1,511.65円

2. 1株当たり四半期純利益金額等

当第1四半期連結累計期間 (自平成20年5月1日 至平成20年7月31日)
1株当たり四半期純利益金額 13.92円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第1四半期連結累計期間 (自平成20年5月1日 至平成20年7月31日)
1株当たり四半期純利益金額	13.92
四半期純利益(百万円)	184
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	184
期中平均株式数(千株)	13,281

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年9月8日

株式会社ロック・フィールド

取締役会 御中

監査法人トーマツ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 辻内 章 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 伊東 昌一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ロック・フィールドの平成20年5月1日から平成21年4月30日までの連結会計年度の第1四半期連結累計期間（平成20年5月1日から平成20年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ロック・フィールド及び連結子会社の平成20年7月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。